

目的 コンクリート住宅では、結露の被害で困っている事例がきわめて多い。結露発生を防ぐには、設計施工が大切であることはいずれまでもないが、居住者として、生活の仕方
で防止できることは何かを検討するために、居住者の結露対策の現状について調査した。

方法 調査対象地 方法等についてはその上に同じである。

調査内容は 通風の程度、家具の置き方および配置が之程度、押入れの物の収納の仕方、
清掃程度、浴室のあとしまつ、暖房器具の種類と加湿状態、被害にあったあとの処置など
である。

結果 結露の予防対策としてまず考えられる通風について、窓の開放をよくするは5割
強、台所の換気扇をよく使用するは7割でよく行われている。冬期暖房時の換気をよくす
るは5割、家具と壁の間にすきまをとってりものは5割、家具の配置が之をよくするは
2割、押入収納物の入れ方の工夫をしてりものは1割であった。これらの行為と結露被害の
有無をみると、窓の開放、家具の置き方工夫など、ほとんどの項目について、結露のある
人程よくやっている。戸住宅が不適であった人よりコンクリート住宅であった人の方が、
通風に気をつけ、結露被害もやゝ少ないことなどを考えあわせると、結露の被害を経験し
てから、通風に気をつけたり、家具の置き方を工夫したりしているよりである。事後処置
としては、みずとり（洗剤、漂白剤使用も含む）3割、壁などの塗りかえ3割、が主なも
ので、そのまゝ放置されてりものは1割強であった。